

社会資本総合整備計画 中間・事後評価

平成30年 3月
【担当及び関係課】 道路交通局道路部街路課

計画の名称	都市基盤となる骨格道路等整備				
計画の期間	平成23年度～平成27年度（5年間）				
計画の目標	広島都市圏における都市基盤となる骨格道路の整備を行い、都心及び拠点地区相互を連絡し、アクセス機能の向上・都市内交通の円滑化を図ることにより、良好な市街地形成を促進する。				
計画の成果目標（定量的指標）					
・市街化区域における都市計画道路の供用済み延長を増加させる。 ・広島市が実施する「行政評価制度市民意識実態調査」の「目的地への行きやすさなど、道路の整備状況の満足度」を向上させる。					
定量的指標の定義及び算定式		定量的指標の現況値及び目標値			備考
		当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H27末)	
市街化区域における都市計画道路の整備率（％） （市街化区域における都市計画道路の整備率）＝（市街化区域における都市計画道路の供用済み延長）／（市街化区域における都市計画道路の計画延長）		69.5％	71.8％	71.8％	
実態調査の「目的地へ行きやすい道路整備」という道路整備状況の満足度調査における全標本数に占める「そう思う」または「ある程度そう思う」と答えた票数の割合（％） （道路の整備状況の満足度）＝（「そう思う」または「ある程度そう思う」と答えた票数）／（実態調査の当該項目の全標本数）		43.5％	現況水準より向上	現況水準より向上	
評価事項					
1. 要素事業の進捗状況					
事業費	H23	4,215 百万円	【完成した事業】 ○基幹事業 ・広島南道路 計画どおり事業を推進し、平成25年度に完成し、L=5.0kmを供用している。 ・御幸橋三篠線 計画どおり事業を推進し、平成23年度に電線共同溝L=1.5kmを完成している。 【継続する事業】 ○基幹事業 ・中筋温品線 計画どおり用地取得を行う等、事業を推進している。 ・矢賀大州線ほか1路線（平成25年度から新規計画に移行） 計画どおり事業を推進し、平成24年度に矢賀大州線の暫定供用を行っている。 ・JR山陽本線・呉線（平成25年度から新規計画に移行） 東部地区連続立体交差事業の見直し検討を行った。 ・花都川線（2工区）（平成25年度から新規計画に移行） 計画どおり用地取得を行う等、事業を推進している。		
	H24	6,402 百万円			
	H25	1,534 百万円			
	H27	67 百万円			
	合計	12,218 百万円			
2. 事業効果の発現状況、目標値の実現状況					
要素事業の効果の発現状況	【完了した事業】 ○基幹事業 ・広島南道路 平成25年度に完成させたことで、アクセス機能の向上・都市内交通の円滑化が図れた。 ・御幸橋三篠線 平成23年度に電線共同溝L=1.5kmを完成させたことで、良好な市街地形成を促進が図れた。 【継続する事業】 ○基幹事業 ・矢賀大州線ほか1路線（平成25年度から新規計画に移行） 平成27年度に矢賀大州線L=0.7kmを暫定供用している。				
目標値の実現状況	指標：市街化区域における都市計画道路の整備率（％）				
	中間目標値（H25末）	最終目標値（H27末）	目標値と実績値に差が出た要因	成果目標の達成状況：概ね達成	
	71.8％	71.8％			
	中間実績値（H25末）	最終実績値（H27末）			
	71.4％	71.6％			
	指標：実態調査の「目的地へ行きやすい道路整備」という道路整備状況の満足度調査における全標本数に占める「そう思う」または「ある程度そう思う」と答えた票数の割合（％）				
中間目標値（H25末）	最終目標値（H27末）	目標値と実績値に差が出た要因	成果目標の達成状況：目標達成		
43.5％以上	43.5％以上				
中間実績値（H25末）	最終実績値（H27末）				
	51.0％	56.4％			
要素事業に併せて実施した他事業の効果の発現状況、及び本計画以外に設定した目標値の実現状況					
3. 今後の方針					
継続中の要素事業については、次期計画（都市基盤となる骨格道路等整備（2期））へ移行して引き続き整備することで、アクセス機能の向上・都市内交通の円滑化を図る。					
4. その他特記事項					
以下の路線については、広島市公共事業再評価審議会で審議され、いずれも市の対応方針（事業継続）が妥当と認められている。 平成24年度 花都川線（2工区）、JR山陽本線・呉線（東部地区連続立体交差事業） 平成25年度 中筋温品線 平成27年度 矢賀大州線ほか1路線					